

済生会松山病院クリニカルパスの歴史

当院におけるクリニカルパス作成の 新体制

～パス事務局設立3年目を迎えて～

済生会松山病院
パス事務局専任看護師 江田義樹

1999年	・整形外科 人工股関節全置換術(THR)クリニカルパスを使用開始 ・糖尿病教育入院、白内障手術パス(使用までに2年)
2004年7月27日	・院内クリニカルパス委員会発足(第4日曜日17時)
2005年10月	・作成パス31種類
2006年10月25日	・第1回クリニカルパス大会 開催
2010年8月	・電子カルテ導入、電子パス使用開始
2018年11月	・BOM導入開始
2019年1月	・パス事務局設立

当院のクリニカルパス委員会構成メンバー

- ・ 医師 15名(委員長1名・副委員長1名含む)
- ・ 看護師 9名
- ・ 薬剤師 2名
- ・ 理学療法士 2名
- ・ 栄養士 2名
- ・ 事務 2名

2021年6月現在

クリニカルパス委員会
毎月第4火曜日 16:30～17:00

以前は17:00～17:30開催であったが勤務時間内での終了を目指して2021年1月より開催時間変更となった。

パス事務局 概要

開設	2019年1月
配置職員	専任看護師:1名、医事課:1名、 診療情報管理士:1名
開設場所	医事課 診療情報管理室
事務局日	1回/週 不定期 院内情報webにてスケジュール表記

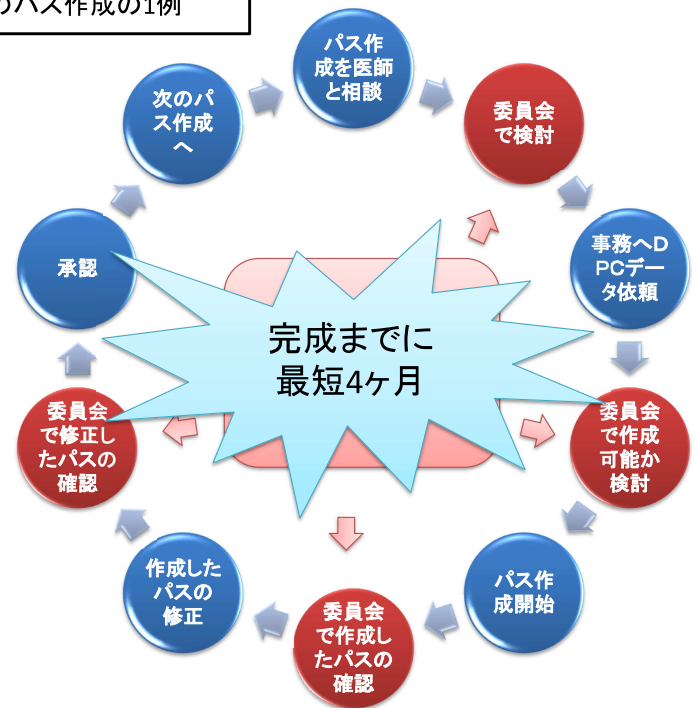
パス事務局 概要

新規パス作成依頼・既存パス修正。
パスに関する全般的な相談窓口。
多部署間の相談窓口として、情報共有・連携強化を行う。
看護師パスワーキンググループを開催。1回/月。 ➡ 1回/2-3ヵ月
臨床パス委員会運営。1回/月。 ➡ 1回/2ヵ月
院内臨床パス大会運営。1回/年。 ➡ 2020年度開催中止
他施設との情報交換・連携等。
パス実務者の集いへの参加。
愛媛臨床パス研究会への参加、世話人会への参加
日本臨床パス学会学術集会への参加。
地域連携パス、脳卒中シームレス研究会への参加。 ➡ 2020年度参加中止
地域連携パス、大腿骨頸部骨折合同会議への参加。 ➡ 2020年度参加中止

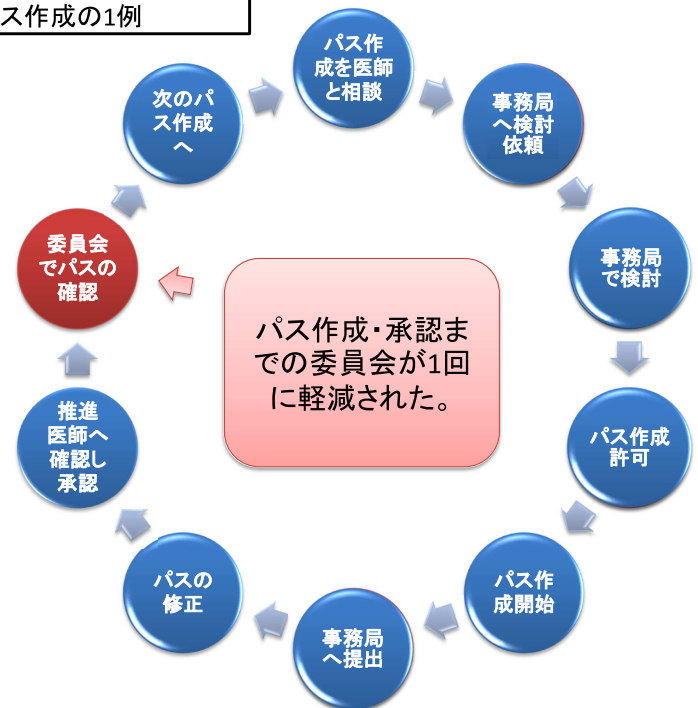
臨床パスと委員会へのイメージ

- そもそもパスを誰に聞いたら良いか分からない。
- パスの使い方が分からない。
- パス委員は時間外でパス作成や残業しているイメージがある。
- 新規パス作成を依頼しても、作成までに時間が掛かるので依頼をあきらめている。
- 既存パスの修正を依頼しても、修正に時間が掛かるので、結局使わない。等々……。

以前のパス作成の1例



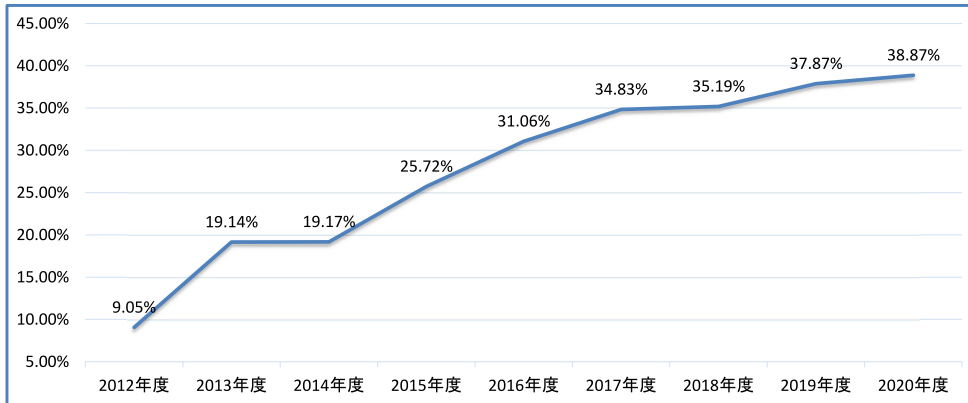
パス事務局設立後パス作成の1例



クリニカルパス適用率推移

当院目標 40%

2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
9.05%	19.14%	19.17%	25.72%	31.06%	34.83%	35.19%	37.87%	38.87%

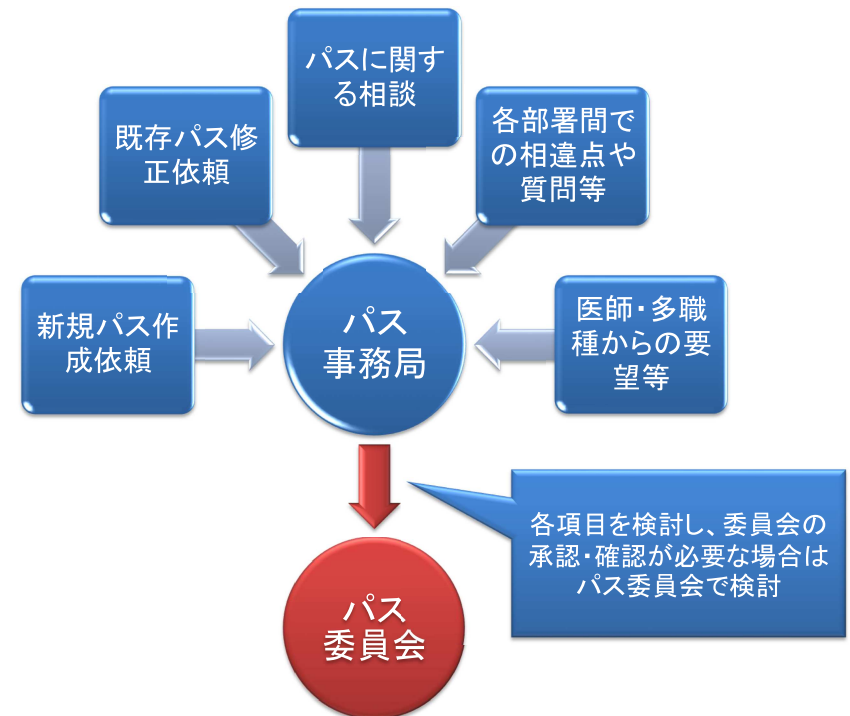


診療科別パス数推移

	2018年	2019年	2020年
内科	24	27	32
整形外科	22	25	37
脳神経外科	13	13	15
泌尿器科	11	11	15
皮膚科	1	1	1
眼科	2	2	2
外科	14	14	15
循環器	10	12	12
脳神経内科	0	0	1
合計	97	105	130

クリニカルパスと委員会へのイメージ

- そもそもパスを誰に聞いたら良いか分からない。
- パスの使い方が分からない。
- パス委員は時間外でパス作成や残業しているイメージがある。
- 新規パス作成を依頼しても、作成までに時間が掛かるので依頼をあきらめている。
- 既存パスの修正を依頼しても、修正に時間が掛かるので、結局使わない。等々・・・。



パス事務局への相談内容

医師

- 新規パス作成依頼
- パス修正依頼
- 指示簿の修正、検査の変更など

看護師

- パス使用方法の確認
- 使用方法、評価方法など
- パス修正依頼
- 看護指示の追加や削除

薬剤師

- パス修正依頼
- ジェネリック医薬品への変更作業など

栄養士

- パス使用方法の確認
- 栄養指導のパス導入の確認

事務

- パス作成時における、コスト面での相談
- 入院期間Ⅱなどパス作成時の日数調整

クリニカルパスと委員会へのイメージ

- そもそもパスを誰に聞いたら良いか分からない。
- パスの使い方が分からない。
- **パス委員は時間外でパス作成や残業しているイメージがある。**
- 新規パス作成を依頼しても、作成までに時間が掛かるので依頼をおきかえている。
- **実際に残業して作成することもあった。**

看護部ワーキンググループ概要

1回/月(委員会日)、半日~1日の業務時間確保し、診療情報管理室で開催する。

パス業務進捗状況や、その他パスに関する業務によっては開催日を増やす。

病棟パス委員が時間を設けて、パスに関する業務が出来るようにする。

パスに関する業務は、新規パス作成・パス修正・統計やデータ収集・バリエーション評価・学会や勉強会の資料作成など、他にもパスに関する作業が含まれる。

病棟業務が煩雑な場合は、状況に応じてワーキンググループ時間の短縮や中止など柔軟な対応をする。

各診療科推進医師と新規パス・修正パスの確認を行う。

パスに関する業務が煩雑な時は、外来パス委員や多職種へ必要に応じて応援を依頼する。

結論

- ① 事務局の設立によりパス作成・修正までの時間短縮が出来るようになった。
- ② パス事務局が周知され、パスに関する窓口業務がスムーズに出来るようになった。
- ③ パス事務局活動とクリニカルパスが周知され、パス適用率が上昇した。
- ④ パス作成・修正作業がスムーズに行われ、パス作成時間短縮された。パス数が上昇した。
- ⑤ 看護部パスワーキングの開催により、パス委員の作業・活動時間が確保され時間外業務が削減された。

今後の課題

- ① パス適用率は徐々に上昇傾向であるが、目標の40%まで到達しておらず引き続き事務局の働きかけが必要である。
- ② パス事務局専任看護師以外の看護部パス委員は1~2年程度で交代するため、パス委員への継続的な教育が必要である。
- ③ 医師の異動に伴い使用率が下がる傾向が見られ、継続した推進活動が必要である。
- ④ パス作成数を増やしたが、その中でも使用率の低いパスがある。修正もしくは、削除する作業が今後必要である。
- ⑤ 病棟編成、業務多忙により看護部パスワーキングの時間確保が困難になりつつある。

今後もより良いパスが出来るよう、事務局業務に励んでいきたいと思っております。



なでしーさん

ご清聴ありがとうございました。